

平成 27 年度
「学校関係者評価」報告書

平成 27 年 9 月
学校法人 新潟高度情報学園
新潟こども医療専門学校

学校法人新潟高度情報学園 新潟こども医療専門学校自己点検・自己評価委員会「学校関係者評価」専門委員会は、平成 26 年度自己点検・自己評価報告書に基づいて学校関係者評価を実施し、以下の通り報告いたします。

1. 学校関係者評価専門委員会委員名簿

| 氏 名 | 所 属 |
|-------|-----------------------|
| 牛腸 和子 | COCO・ネット 代表 |
| 白川 初美 | 社会福祉法人美勢会 あいりす保育園 理事長 |

2. 参加者

学校評価委員

牛腸 和子 (COCO・ネット 代表)

白川 初美 (社会福祉法人美勢会 あいりす保育園 理事長)

学校側参加者 (事務局)

石澤 直樹 (学校法人 新潟高度情報学園 理事)

小見 英晴 (新潟こども医療専門学校 学校長)

横堀 正浩 (新潟こども医療専門学校 副校長)

戸川 俊 (新潟こども医療専門学校 教務主任)

小熊 亜沙子 (新潟こども医療専門学校 医療事務総合学科主任)

3. 基準項目ごとの学校関係者評価・意見

| 項 目 | 評価・意見・質問等 |
|------------------------|---|
| 基準1 教育理念・目的・ 育成人材像等 | <ul style="list-style-type: none"> ・こども分野は1年次に実習に来るが挨拶ができない学生が多いので、学校でもう少し指導してから来てもらえるとよい。挨拶、遅刻。男子学生は文章が苦手なことが多く、上の園児のクラスの担当には当てられない。 ・意欲があるならば乗り越えていかなければ達成しない。実習生であっても園にいる間は「先生」なので、こども好きであることは大事な要素である。保護者にも理解いた |

| | |
|----------|---|
| | <p>いて、挫折しそうなタイミングで叱咤してもらえる体制をとってほしい。軽い気持ちで入ってきて目標の相違で退学する学生もいる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習生の素直さがなければ実習の受入れもしたくなくなる。 ・保護者会は年度の初めに開催できないか。保護者にも仕事に対する理解をいただき、学生を支援する体制を築けるとよい。 |
| 基準2 学校運営 | <ul style="list-style-type: none"> ・システムサーバーの老朽化、メンテナンス、簡略化が必要か ・電子部品なので定期的にメンテナンスを。 ・職員のセキュリティ規制を設けた方がよい。自宅に個人データを持ち帰らないなど。 |
| 基準3 教育活動 | <ul style="list-style-type: none"> ・部分実習は1年のうちほうまくできなくて当たり前だと思ってやってほしい。思い通りにならないことがあるのは仕方ないと思って失敗体験をしてほしい。絶対的自信がある学生もたまにみられるが挫折も必要。アルバイト等で大人と関わる経験をしてほしい。 ・医療では来年度は点数改正で薬価改正で改変のとき。福祉系に目を向けるなど情勢を反映したカリキュラムに変えていくべき。 ・職員が現場の情勢をつかむために外部との関わりを多く持つべき。 |
| 基準4 教育成果 | <ul style="list-style-type: none"> ・日誌など書き物は良くできている。実習生は質問の仕方もいい。 |
| 基準5 学生支援 | <ul style="list-style-type: none"> ・1年目から就職意識を高めていくために、仕事の魅力を先輩卒業生から聞くことは大事。将来像を描くことはイメージをふくらますために重要。学生時代のノートなど後で財産になるのでとっておくべき。保護者とコミュニケーションがとれると応援体制もしっかりしてくる。 ・動向調査を卒業後、はがきなどで行うべき。医療関係は |

| | |
|----------------|---|
| | 不景気になると人気が出てくる。学生にとってはチャンスである。 |
| 基準6 教育環境 | ・教室は現状で不都合がある部分は教室の正面の向きを変えるなどして対応できている。 |
| 基準7 学生の募集と受け入れ | ・奨学金は借りても家族の生活費に回るケースもある。奨学金が保護者の口座に入るシステムは問題である。 |
| 基準8 財務 | ・特に問題とすべき点はないと考える。 |
| 基準9 法令等の遵守 | ・個人情報保護のため、学生の個人データを持ち帰らない、USBにコピーしないといった規制が必要なのではないか。 |
| 基準10 社会貢献・地域貢献 | ・縁日ごっこや紙芝居を通し、地域の園とは交流ができています。 ・診療所では骨折予防体操など、専門分野を活かし保護者や地域の方向けに公開講座を開いているところもある。 |

3. 学校関係者評価の総括

学生報告など情報共有を行うための体制は概ね整っている。さらに教職員の連携を強化し、学生支援等を行っていくことが大切である。

実習協力施設からは、「実習はできるだけ手伝わせてもらいたい。職員の教育にもなる。」との意見もあり、相互関係の良い環境であると言えるであろう。しかし、その状況に甘んじることなく、即実践力を目指した学生を育成できるよう教職員自身のスキルアップを臨むことが大切である。そのためには、日々状況の変化していく現場を知るために職員が積極的に現場に出るべきであろう。職員が現場をさらに知り経験を積むことで学生たちに対しても還元ができると考えられる。また当校の職員と現場との関係性もさらに良好になることで、新しい制度の情報をいち早く獲得できるのではないかと考える。さらに実習受け入れ先や就職先など新しく開拓できる相互関係ができるよう今後も学生のみならず、教職員も現場力を高められるような体制をとっていきたい。また、教職員自身も学生と同じように実技等を経験することにより学生からの信頼関係をさらに向上できるのではないかと考えられる。